

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）ブンキョウガクインダイガク	フリガナ）ケイエイガクブ	フリガナ）ニッタゼミ
文京学院大学	経営学部	新田ゼミ

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 内動画 （有・無）	動画使用 スライドページ
フリガナ）ニッタゼミエーハン	フリガナ）イシダ アヤナ	5	無	無
新田ゼミ A 班	石田 綾菜			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）
Microsoft Office PowerPoint 2016、マイク 2 本

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ（発表タイトル）
環境問題を考える～大学生に対する行動改善～

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

本研究は、大学生の環境配慮行動の規定因を探り意識と行動を結びつけることを目的とする。

近年の環境問題の深刻化に伴い、大学生の環境配慮行動の現状を調査したところ意識と行動が結びついていないことが分かった。このことから大学生を対象にインタビュー調査やアンケート調査を行い、環境配慮行動の規定因をもとに行動変容への有効策を提示する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

近年、環境問題は深刻化していることから世界でも問題視されている。G20 やグレタ・トゥーンベリのように、環境問題を解決しようとする社会活動は年々熱気を帯びてきているが我々一般消費者の意識を改革するまでには至らない。

環境問題の深刻さを認識するため、まず我々は環境に精通している法政大学経済学部の松波淳也教授にお話を伺った。ここ 30 年の間に温暖化を始め海洋ごみ等の問題は悪化の一途を辿っており、抜本的な解決には至っていないのが現状である。また、図 1 の環境省（2016）による近年の環境状況についての調査から 8 割以上が悪化していると答えた。図 2 の環境問題への影響についても一人ひとりの行動が大事であると同様の割合で感じている人が居ることが分かった。

近年の環境の状況についての実感

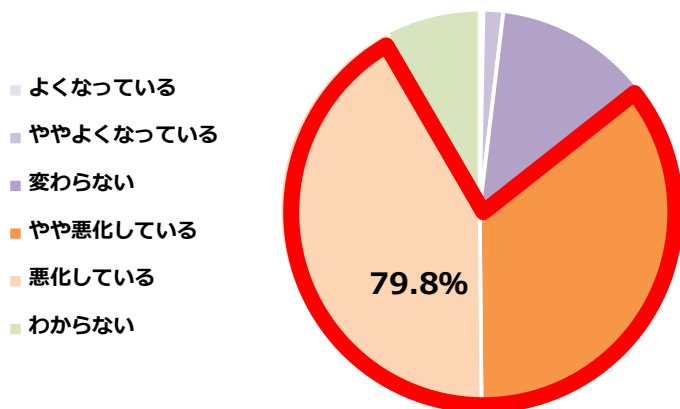
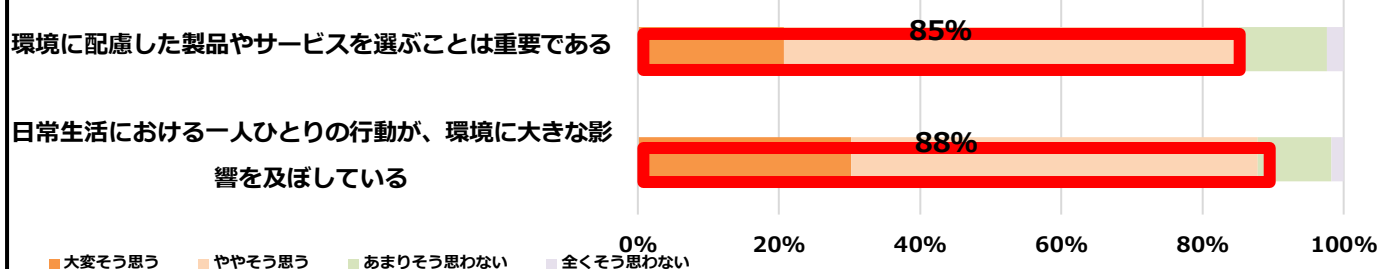


図 1：近年の環境の状況についての実感
出所：環境省（2016 年）

環境問題に対する考え方



出所：環境省（2016 年）

環境への配慮意識と行動は結びつかないとされている。広瀬（1994）らにより環境配慮行動の規定因に関する既存研究は数多くされてきたが、多くの対象が全年代へのアプローチであり、その中でも大学生に着目した規定因の研究は少ない。

そのため先行研究の少ない大学生の環境配慮行動の規定因を分析により明らかにする。

3. 研究テーマの課題

本研究テーマの課題は、環境配慮行動に関する多くの既存研究がある中、大学生の環境配慮行動の規定因を明らかにしたものは少ないことである。大学生を対象としたグループインタビューより、「報酬が欲しい」「話題性があれば・・・」などといった声が上げられた。そのため、真の規定因を探り、行動実施への有効策の提案が必要だと考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記で述べた課題を解決するために、我々は大学生と企業双方に解決策を提案する。大学生に対しては、環境配慮への行動変容のきっかけになるようなイベントの開催、企業に対しては行動が一般化するようなインプリケーションの提示を行う。

大学生向けのイベントは、イベント実行にあたり環境問題解決へのリーダーシップ性と知識を併せ持つ EL（Environmental Leader）を配置し参加者が EL の影響を受けながら行動を変容させることが目的である。

企業へのインプリケーションは、分析結果から出た 3 因子に基づき自分らしいマイボトルを携帯する「マイボトルリティ生活（マイボトル×マイノリティ）」の提案である。海外事例を参考にし、各分野の日用品（食品・生活雑貨等）をマイボトルに詰め替えられるエコ且つオシャレな生活を目的とし、率先した環境配慮行動の実践を目指す。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

我々は、始めに大学生の環境問題に関しての実態を知るために計 10 名の学生にグループインタビュー調査を実施した。その結果、本研究に繋がる大学生の「環境問題に対する意識と行動の違い」を読み取ることが出来た。

それに基づき、計 2 回の独自アンケート調査を実施した。1 回目の調査では論文等の先行研究とグループインタビューで分かった規定因を合わせながら、5 件法を用いたアンケートを作成し、確認的因子分析を行った。分析結果から大学生が行動する 6 因子を抽出した。さらに、6 因子から大学生に有意な因子を探るために重回帰分析をした結果 3 因子の有意性が確認できた。その 3 因子に着目し、これらが大学生が行動する規定因であると仮定した。

2 回目の調査では、3 因子の具体的な行動レベルを知るために再度アンケートを実施した。アンケート結果を基に、探索的記述

統計を行った。

6. 結果や今後の取り組み

今後の課題として研究結果の実証をすることと、尺度と規定因は我々が独自で考えたことであり一般化がされていないことがあげられる。

また学生に対する今後の展望は、文京学院大学にイベント開催のアプローチを行いイベント内だけでなく普段から環境配慮を心掛けるようになることだ。次に企業へのインプリケーションの展望は、まず企業に本提案についてのアプローチをしてマイボトリティ生活を一般化させ、検証研究を行い、生活のミニマム化を広めることだ。

7. 参考文献

【web】

- 環境にやさしいライフスタイル実態調査報告書「関心のある環境問題」環境省（2016）（閲覧：2019.9.23）
- 環境にやさしいライフスタイル実態調査報告書「環境問題に対する考え方等への意識・考え」環境省（2016）

（閲覧：2019.9.23）

- 新学習指導要領における「環境教育」に関わる主な内容 文部科学省（閲覧：2019.9.23）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/013/003/shiryo/attach/1299713.htm

- プラスチック資源循環戦略案（2019）環境省（閲覧：2019.9.23）

【論文】

- 小池俊雄、吉谷崇ら(2003)「環境問題に対する心理プロセスと行動に関する基礎的考察」水工学 論文集, Vol. 47, pp. 361-366, 2003.
- 廣瀬幸雄(1994)「環境配慮行動の規定因について」, 社会心理学 研究, 10(2), pp. 44-55, 1994.
- Ajzen(1991)「The theory of planned behavior. Organizational Behavior and Human Decision Process」Vol. 50, pp. 179-221, 1991.
- 前田ら(2012)「廃棄物発生抑制行動の心理学的規定因」
- 麓・榊原（2002）「大学生のごみの分別意識について」京都教育大学環境教育研究年報 pp.19-28
- 和田（2014）「年齢層の異なる大学生の環境意識の差異に関する考察」神戸山手大学紀要（16）, pp149-158
- 安藤,大沼ら(2019)「環境配慮行動における二者間の相互作用の検討：ペア・データ調査から」実験社会心理学研究 第 59 巻第 1 号 pp1-13
- 木村,柴田(2019)「消費者の環境配慮行動と生活上の価値観の関係」15 巻 2 号 p.199-210
- 竹橋,元吉(2016)「動機づけ理論に基づく環境配慮行動の分析」モチベーション研究所報告書 pp2-11
- 久保田(2002)「デポジット・リファンド・システムと消費行動に関する一考察」9 巻 1 号 pp. 71-76

【書籍】

- 「社会調査ハンドブック」飽戸弘(2006) 第 18 刷 P252-P260 日本経済新聞社

【ご協力いただいた方々】

- 法政大学 経済学部 教授 松波淳也様
- 明星大学 経営学部 教授 平野英一様
- 文京学院大学 経営学部 教授 鈴木紫様
- 文京学院大学 経営学部 准教授 草野千秋様
- 特定非営利活動法人 green bird (認定 NPO 法人グリーンバード) 表参道チームリーダー 福田圭祐様
- 八王子市役所 資源循環部 ごみ減量対策課 主任 原田 茂美様
- 八王子市役所 資源循環部 ごみ減量対策課 主事 蒲生奎哉様

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、INNER大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください